

令和2年度 第2回練馬区放課後子ども総合プラン運営委員会 会議要録

- 1 日時 令和2年12月17日(木) 午後6時30分～午後7時50分
- 2 場所 本庁舎20階 交流会場
- 3 議事および意見・質疑ならびに回答要旨
 - (1) 令和3年度練馬区立委託学童クラブおよび練馬区ねりっこクラブの運營業務委託事業者の決定について
 - (2) 練馬区立児童館等指定管理者の指定について

意見・質疑要旨

- ア なぜ民間委託・指定管理をするのか
- イ 事業者は受託希望施設の要望を出せるのか
- ウ 応募事業者はどの程度の数があったのか
- エ 事業者による運営ができなくなった場合の緊急時マニュアルは有るのか。マニュアル作成を要望する。
- オ 父母会として事業者選定についての要望提出、選定時の傍聴は可能か
- カ 選定の採点表や基準項目を公表してほしい

回答要旨

- ア 民間にできることについては民間にお願いをして、民間の力を発揮してもらう、という区の方針による。
- イ 事業者の希望は参考として聞き取るが、決定は区の選定委員会が行う。
- ウ 委託学童：14事業者 ねりっこクラブ：8事業者
- エ 事業者による運営ができなくなるような事態に陥らないよう事業者を選定している。マニュアルは現時点ではないが、緊急時は、区が責任を持って運営する。
- オ 保護者からの要望は、口頭や文書で受け取り、選定時に勘案している。事業者の選定時に保護者が傍聴できないことは一般的な対応である。
- カ 公文書公開条例に基づき、公開基準が定められている。公開できる項目とできない項目、受託が決定した事業者と受託できなかった事業者、契約が済んでいるか済んでいないかによって、それぞれ公開できるかできないかが規定されている。

(3) 令和2年度学校応援団研修の実施について

意見・質疑

特になし

(4) 放課後や休日における地域との協働について

<学校応援団、ねりっこひろば職員>

学校応援団は、現学校保護者、元学校保護者が中心、開放事業には地域の高齢者も加わるといふ職員構成。学校応援団は理事に元PTA会長がいるため、地域の情報、学校との関わりなど相談ができる体制。青少年育成地区委員や消防ともつながりがある。学校応援団でひろばを立ち上げた時から職員間のコミュニケーションを大切にしてきた。職員にとって心地の良い場所が子どもたちを受け入れるにもあたたかい場所になり、大人も存在意義を見つけられる。

子どもたちへの還元だけでなく、地域の集まりがあると手伝い合うような関係性が作れているため、地域への還元もできている。これからもチームワークを大切にしていきたい。

<学校応援団、ねりっこひろば職員>

知らない子どもには声をかけにくい時代だが、学校応援団やねりっこひろば職員をすることで、地域の子どもの顔がわかるので声をかけやすく、地域の防犯や子どもたちとのふれあいのきっかけになっている。

ねりっこクラブについては、来年度から、事業者が現学校保護者は職員として雇用しないことに決めたことが残念。保護者参加ができないことは、地域の参加ができないことにつながる。

放課後を通し、子どもたちにとって、地域にとって、何が大切かを考えて協働していきたい。

<学童クラブ保護者（父母会長）>

学童にも父母会があり、学校のPTA同様に負担に感じる保護者がいるのは理解できる。やりたい人がやりたい時にできることが理想ではある。

父母会は、学童にとっては協力者であり、時に牽制役、見守り役である。例えば、職員が虐待のようなことをしたら父母のつながりがあれば話がすぐ入り、問いただせるので重大な事故を未然に防いだり、ことが大きくなる前に防げたりする。緊張関係を持ちつつ、より良い保育環境のため、良い関係でいたい。

イベントに参加すると、自分の子どもが誰と仲良しなのか知れたり、家庭では見られない一面を見られたりする。父母会活動の良い点である。

国は、保護者組織との連携について謳っている。区としては、父母会があれば支援するが、設立については積極的に働きかけを行うものではないと言っている。新規開設の学童において、父母会設立についても支援してほしい。

<学童クラブ保護者>

自分は、地域や学童に積極的に関わる方ではない。学童は、ただ子どもを預けておく場所、という感覚の保護者もたくさんいる。

子どもにとって学童は生活の一部。学童での様々なルールがあることは嫌がるけれども、毎週水曜日にひろばで地域の方から将棋を教えてもらうことがすごく楽しみで、自宅でも盤面を見ているほどになった。親が家庭で教えてあげられない遊びを教えてもらえることはありがたい。

以前、親が不在時に鍵を持たずに帰宅して家に入れなかった時、地域の見守り活動をしている方が声をかけてくれて、さらにそこからひろば職員の家まで連れて行ってくれ、その職員がしばらく子どもを預かってくれたことがあった。地域の方が積極的に関わり、連携ができていることはすごいことであり、これからも地域とのつながりは大切にしてほしい。

<青少年育成地区委員>

コロナの影響でキャンプなどの行事がすべて中止になった代わりに、地域の農家でネギ抜き体験や大根抜き体験をした。農家の方々がとても協力的で、子どもたちのために一生懸命になる姿がありがたく、子どもにとって良い思い出になったはず。

<民生委員>

主に高齢者の見守りをしている。そのほか主任児童委員がおり、保健所や子ども家庭支援センターからの依頼で子どもや家庭の見守りをしている。家庭に入り込むわけではないが、どこに相談したらいいかわからない家庭を見守り、適切な部署につなげる役目である。

何年も民生委員をしていると、たくさんの保護者と知り合い、地域の方とも仲良くなり、学校ともつながっているの、話がきた時には民生委員みんなで協力していろいろな輪で子どもたちを見守っている。

<民間学童運営者>

今年度末で、17年間の運営に幕を下ろす。地域のいろいろな方に協力してもらいながら運営してきた。特に青少年育成地区委員会には行事を教えてもらい子どもたちもたくさん参加させてもらって感謝している。

民生委員、主任児童委員の立場として地域の若い世代の子育て支援、家庭支援を目的として民間学童を立ち上げた。新宿の児童相談センターとも連携して虐待や不登校などいろいろなことに関わってきた。地域の一員として、少しは地域の役に立てたかな、と思う。寂しい気持ちはあるが、最後まで精一杯やっていきたい。

<小学校校長>

光が丘地区には光が丘地区連合協議会という組織があり、地域のすべてのことに関わっている。

一番の基本、第一優先は“子どもを育てる”ということ。保護者や教職員の結びつきで協力して育てている。

学童職員とは、小学校の運動会に来てもらう、学童の誕生日会に顔を出すなど相互の結びつきがある。学校と学童の生活でどう違うのかという視点を持っている。学校では汚い言葉遣いをしない子どもが学童でそういった発言をした場合、連携があることによって生活的な指導ができることもある。今後も学童とは連携していくので、民間委託されたとしても、話し合いができればいいので心配はしていない。

運営協議会を半年に一度行って、そこでいろいろな情報も出る。民生委員とも連携を密にしている。保護者含め、この連携によって子どもたちを協力して育てていくことができる。

<PTA連合協議会>

そもそもPTAは何をしているところなのかを理解してくれていない保護者が多いので、まずは参加以前に知ってもらうことが一番の課題。

今の時代に合わせたPTAの形に変えていかなければならないと考えている。少しでも保護者の負担を減らして、保護者の参加ができるようになれば地域とのつながりもでき、子どもたちのための活動が増えると思う。

<民間学童運営者>

地域で見守る「安全安心街角を守る会」という会を作り、できる限り夕方5時半から6時まで地域一帯をパトロールする見守り活動をしている。

事業者として、皆さんからの意見を元手により良い事業運営をしていく。

4 その他の意見・要望

- ・この運営委員会の議事録について、要録だけではなく昨年度までと同様の発言内容がわかる議事録の発行を要望する。
- ・学校や学童で、コロナ陽性者が出た場合の対応フローおよび、保護者が陽性で児童本人は陰性の場合の対応等を保護者に事前周知してほしい。

5 連絡事項

次回開催は令和3年3月17日（水）午後6時30分～